

キーワード：「8. 27たいしん防災の日」 地域に根ざした防災学習

I 研究について

1 はじめに ～8. 27水害と本校の防災学習について～

本校は平成10年（1998年）8月27日の「8. 27水害」で北校舎が半壊するという大きな被害を受けた。当時の教職員や生徒は大変な思いをしたが、PTAが中心となり、村の施設を借り上げ、机・椅子・黒板などを集めて、被災後わずか1週間で授業を再開することができた。翌年、その時の取組が評価され、本校PTAは全国PTA大会で団体表彰を受けた。そして、生徒も必死に頑張っ



現在の大信中学校校舎

て学習や運動に取り組み、秋の新人戦への出場や、聖流祭（学校祭）を開催することができた。

しかし、年月と共にそのことは忘れ去られていた。現在の生徒にとっては生まれる前の出来事であり、ほとんどの生徒は水害があったという事実を知るのみであった。

そうした折、平成30年度、本校の創立50周年記念事業を実施したところ、式典でのスピーチや記念誌への寄稿の中に、歴代の校長・PTA会長やOBから「8. 27水害」のお話をたくさんいただいた。それを契機に、創立50周年の節目として、本校の防災学習の内容を見直し、自校で起きた大きな災害について全校生で学んでみようという気運が高まった。

2 昨年度までの実践

平成30年度は、例年秋に行われる白河市長との「市長と語る未来フォーラム」のテーマに「8. 27水害」を掲げ、資料などを基に調べたことを発表し、市長から講話をいただいた。

平成30年10月 5日 第29号 白河市立大信中学校

<p>市長さんの講演</p>	<p>時周学 と半室中しがよの大8にに に年校今な壊や学て出り大水月学今 での年りす北校、ま大信害27の回 の創はまる校でわしき地区に見舞す る立大し大舎はがた。被で舞福す ・と立大した災が技大。被はわ島今 7同十中害全術信そ害はれ県今 7同十中害全術信そ害はれ県今</p>	<p>しらかわ未来フォーラム 開く 市長さんに大信中生の声を</p>	<p>学校だより 三年先の稽古 発行：校長 益子 朗</p>
<p>発大し福が行災多で水害 事震て島わくも害 故災も県東れ滅のあから に福東は、い教校ま二十 特島日と特ま育です年 化原うにすが防</p>		<p>かわ未と市長と語る未来フォーラム（しらかわ未来フォーラム）が行われま した。去る10月4日（木）、白河市長・鈴木和夫様をお迎えして恒例の「市長と語る未来フォーラム」を開催しました。</p>	<p>しらかわ未来フォーラム 開く 市長さんに大信中生の声を</p>
<p>トる災て さ語なにしOをもよ本Oつこ地のO に学に大来いりすみ思持う座ノこと区よ山 な習つ信年まかをの心やや、佑ベ まし度のい年まかをの心やや、佑ベ した区にたて生とをりと好何教ル ま考のか、く徒大や奇事授賞 た。え防け だに切慈</p>	<p>演し回べ話れ今か学7でせし で最た。てて各自イテひの学がな の市長講問に、市長見聞方部毎かす の持た信生問に、市長見聞方部毎かす の持た信生問に、市長見聞方部毎かす</p>	<p>今か学7でせし 今か学7でせし 今か学7でせし</p>	<p>目指すべき生徒像 知徳体 温つたか大信中生 学がだ信中生</p>
		<p>今か学7でせし 今か学7でせし 今か学7でせし</p>	<p>目指すべき生徒像 知徳体 温つたか大信中生 学がだ信中生</p>

(当時の学校だより)

令和元年度は、福島県中学校教育研究会の県大会が開催されるにあたり、特別活動の授業公開を行うこととなった。そこで、研究副主題に基づき、異年齢集団での活動の活性化を図る中で、学級や委員会など、人為的に作られた集団ではなく、生徒が住んでいる地域毎の「方部会」を活動主体とし、「8. 27水害」について、方部毎に調べる学習活動を設定した。

令和元年度福島県中学校教育研究会特別活動の概要

◎研究主題

学校の創意工夫を生かし、深い学びをとおしてよりよい人間関係を築こうとする生徒を育む指導はどうか。

○研究副主題

生徒会の一員として、よりよい集団づくりに参画するための工夫

(1) 研究主題・副主題のとらえ方

①研究主題について

「学校の創意工夫を生かし」は、「小規模校だからこそ」に加えて「この地域だからこそ」という視点のもとに実践する。「深い学び」のため、実践にあたり、課題設定から振り返りまでの一連の行動を「実践」と捉える。「よりよい人間関係」として、年齢や性別に関係なくお互いのよさを生かせる関係を目指す。

②研究副主題について

生徒会活動の目標にもあるように、異年齢の生徒同士で協力すること、学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて話し合うこと、計画を立て役割を分担し実行すること、協力的な運営に自主的・実践的に取り組ませるための工夫についての研究を進める。

(2) 研究構想

研究を行うにあたり、①異年齢の生徒同士で協力すること、②学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて話し合うこと、③計画を立て役割を分担し実行すること、④協力的な運営に自主的・実践的に取り組ませるための工夫の4点を研究実践の柱とする。それをもとに8. 27水害を踏まえて災害発生時に自分たちがどう行動すべきかについて考えさせ、自分の身を守った上で地域貢献ができる生徒を育てていきたい。また、将来の中学生も実践できるように形になるものを残し、後世に引き継いでいきたい。

(3) 指導計画（総時数6時間）

時 間	内 容	ね ら い
1 / 6	県南建設事務所及び県砂防ボランティア協会の防災担当者による講話を聞く。	土砂災害の仕組みや対策を学び、防災について考えるための知識を習得させる。
2 / 6	写真、映像、証言などに触れ、大信地域で起きた8. 27水害について知る。	大信地域では実際にどのような被害が出たのかを確認し、関心を高めさせる。
3 / 6	災害当時の様子について聞き取り調査した内容を共有し、危険箇所を把握する。	災害時の行動について考えるきっかけを作る。

4 / 6	平常時に自分たちにできることを考える。	災害時に適切な行動ができるためにおくべきことは何なのかを考えさせる。
5 / 6 【公開】	方部毎の行動目標を作り、生徒会全体としての防災計画や防災宣言に発展させる。	災害時に自分たち中学生はどう行動すべきかを表明し、自覚をもって行動できるよう意識を高める。
6 / 6	生徒会全体としてまとめた防災計画について、県の防災担当者に講評をもらう。	生徒の取り組みについて評価をいただき、生徒に自信と自覚をもたせる。

※ 公開授業の指導案については資料編3ページに掲載

3 「8. 27たいしん防災の日」創設

この2年間の防災学習を受け、新たに課題として見えてきたのが、地域との関わりである。いくら災害について調べても、文献や映像資料などから得られる情報は限られており、また生徒にとっても、地元で起きた災害として理解が深まったという実感に乏しかった。

そこで、さらに学習内容を深め、地域に根ざした、地域生活に役立つ防災学習とするため、引き続き、「8. 27水害」を防災学習の中心課題とし、地域との連携を図りながら自分たちの住む場所のこととして、自分たちの生活に役立つ内容になるような学習活動を行うことを目指した。そして、今年度より新たに8月27日を「8. 27たいしん防災の日」と位置づけ、その日を中心として、重点的・集中的に防災学習を実施することとした。

4 研究方針

学習に当たっては、生徒会の組織の一つである方部会を最大限に活用した。同じ地域に住んでいる方部毎の異年齢集団によるグループ活動を行い、学校生活と地域生活の充実と向上を図るために防災に関する諸問題の解決に向けて話し合った。「8. 27水害」を踏まえて、災害による被害を防ぐために自分たちがどう行動すべきかについて、方部毎の地域性や特徴と結びつけて考えさせることを通して、地域の一員としてよりよい集団づくりに参画し、よりよい人間関係を築こうとする生徒を育むことを目指して実践した。

5 研究計画

(1) 題材 自分たちの住む地域の防災について考えよう ～「地域の防災新聞を作ろう」～

(2) 題材について

昨年度までに引き続き「8. 27水害」を扱う。今年度より8月27日を「8. 27たいしん防災の日」と定め、その日に向けて防災教育の取組みを行ない、防災教育推進校として発表する。

学習に当たっては生徒会の組織の一つである方部会を活用する。同じ地域に住んでいる方部毎の異年齢集団によるグループ活動を行い、学校生活の充実と向上を図るための諸問題(防災)の解決に向けて話し合う。「8. 27水害」を踏まえて、災害による被害を防ぐために自分たちがどう行動するべきかについて方部毎の特徴と結びつけて考えさせることを通して、生徒会の一員として、ひいては地域の一員としてよりよい集団づくりに参画し、よりよい人間関係を築こうとする生徒を育みたい。

(3) 指導計画 (総時数7時間)

回	月 日	主 な 学 習 内 容	学 習 の ね ら い
第1時	4月 20日 (月)	写真・映像・証言などをもとに、大信地域で起きた「8. 27水害」について改めて知る。 (全校集会)	大信地域での実際の被害状況を確認し、「8. 27水害」を風化させず、地域防災への意識を高める。
第2時	6月 18日 (木)	昨年度の方部毎の学習について振り返り、ハザードマップを用いて危険箇所を再度確認する。 (方部会)	災害発生時の適切な行動について、昨年度の学習をもとに方部毎に確認する(特に1年生への伝達・周知を図る)。
第3時	7月 17日 (金)	ハザードマップや地域からの予備情報を基に、地域取材の計画を立てるとともに、防災新聞の基本設計を行う。 (方部会)	昨年度の防災学習が活かされた面、活かされなかった面を整理し、改善点を自分たちで考えさせる。
7/23(木) 方部毎に計画に従って地域取材を行う。			
第4時	7月 29日 (水)	取材した内容を基に、各方部の「防災新聞」の制作に着手し、追加取材の必要な部分を洗い出す。 (方部会)	制作に先立って新聞の内容・構成を話し合わせることで方部の特徴に着目させる。
(夏季休業中) 方部毎に計画に従って地域取材を行う(1回目の内容の補完)。			
第5時	8月 25日 (火)	方部毎に「防災新聞」を完成させ、ポスターセッションの事前準備をする。また、学習のまとめを行う。 (方部会)	全員が新聞制作と発表練習に参加することによって、一人一人の防災への当事者意識を高める。
第6時	8月 27日 (木)	「防災新聞」をもとにポスターセッションを行い、方部毎の防災学習の成果を発表しあう。 (全校集会)	自分の方部の防災について理解を深め、地域住民の一員としての自覚をもたせる。
第7時	9月 3日 (木)	防災学習のまとめとして、各方部の発表内容や各自の感想を冊子としてまとめる。 (方部会)	学習内容を実生活や地域に活かせるように資料としてまとめ、活用を図る。

(4) 定例方部会

- 4/10(金) 放課後 第1回方部会 構成員と各自の自宅の位置関係の確認 など
 7/17(金) 放課後 第2回方部会 方部毎による話し合い活動の充実 など
 12/17(木) 放課後 第3回方部会 振り返り・次年度に向けて など

(5) 「8. 27たいしん防災の日」について

- 1998年8月27日の「8. 27水害」の犠牲者や校舎の被害を悼み、地域防災への意識を図る日として教育課程に位置づける。
- 大信地域最大の自然災害と言える「8. 27水害」について、記憶を風化させず、教訓を活かすため、毎年この日に防災学習を実施する(第1回の今年度は、自衛隊による防災教室を行う)。

(6) 防災教育全体計画

令和2年度 防災教育全体計画

白河市立大信中学校

学校教育目標

校 是

生徒の実態
○ヘルメットの携帯など防災意識が高い。 ●地域の災害や防災体制について十分には知らない。

防災教育の目標
防災学習を通じて、 ○「平時に有事を思う」心構えを身につけさせる。 ○「命の大切さ」について真剣に考えさせる。 ○「他者への思いやり」を身につけさせる。 ○「現場力」・「本番力」を磨く。

地域の実態
○中学校の教育活動に積極的に協力していただける。 ●土砂崩れ・河川の氾濫の危険がある地域である。

防災教育・防災体制の充実

防災体制の整備・充実	防災教育の推進	防災教育の実践力の向上
○安全点検・避難経路の確認 ○防災関係の校務分掌の整理 ○関係機関との連携の強化	○8. 27たいしん防災の日の計画的な実施・継続 ○教科等横断的な防災学習	○防災教育関係の研修の実施 ○救急救命訓練の実施 ○避難訓練の計画的な実施

「8. 27たいしん防災の日」

○1998年8月27日に発生した「8. 27水害」について自ら学び、理解させる。 ○災害の教訓を後世に伝えるため、今後の防災のあり方について考えさせる。 ○地域素材を元にした学習を進めることによって、地域との結びつきを強める機会とする。
--

各学年の重点事項

1年生	2年生	3年生
○「8. 27水害」について上級生の支援の下、自分で調べ、まとめる。 ○災害発生時に自らの命を守るためにどのような行動をとるべきか、考えをまとめる。	○「8. 27水害」について3年生に協力し、1年生を支援しながら学習する。 ○災害発生時までには備えておくべき物品や心構えについて具体的に挙げてまとめる。	○「8. 27水害」について学んだことをもとに、未来への伝言(碑文)を考える。 ○災害発生時の行動や地域の中で自らが果たすべき役割について十分に考えを深める。

各領域の重点事項

各教科	特別な教科・道徳	特別活動	総合的な学習の時間
○科学的な思考・判断力の育成 ○災害発生メカニズム ○地域の災害の特徴や防災体制	○生命尊重、人権尊重の精神 ○ボランティアの精神と実践力 ○愛校心、愛郷心 ○地域貢献の精神	○避難訓練 ○安全指導・安全教室 ○方部会を活かした防災学習 ○調べ、話し合い、まとめ、発表する学習活動	○地域取材学習 ・被災者等への取材 ・実地踏査 ・地域住民との交流 ○地域人材の活用 ・専門家・外部講師による講話や指導

家庭	○防災備品や、有事の際の行動の確認 ○家族の防災意識の高揚	地域	○町内会の奉仕作業や防災訓練への参加 ○地域住民の一員としての意識の高揚
----	----------------------------------	----	---

地域に支えられ、地域を支える学校 「現場力」・「本番力」を磨く学校

Ⅱ 研究の実際について

第1時

月 日	主 な 学 習 内 容	学 習 の ね ら い
4月20日 (計画時)	写真・映像・証言などをもとに、大信地域で起きた「8. 27水害」について改めて知る。 (全校集会)	大信地域での実際の被害状況を確認し、「8. 27水害」を風化させず、地域防災への意識を高める。

※ 新型コロナウイルス感染拡大対策によって休校となったため中止とした。別日に昨年度実施した全校集会の際の動画、スライド資料をもとに、復習をした。



(県南建設事務所職員による講話・実験) (映像による「8. 27水害」の学習) (方部会での意見交換)

第2時

月 日	主 な 学 習 内 容	学 習 の ね ら い
6月18日	昨年度の方部毎の学習について振り返り、ハザードマップを用いて危険箇所を再度確認する。 (方部会)	災害発生時の適切な行動について、昨年度の学習をもとに方部毎に確認する(特に1年生への伝達・周知を図る)。

実質的に今年度第1回の方部会となった。卒業生が去り、新1年生が加わって各方部ともメンバーが入り替わったので、まず組織作りを行い、今年度の防災学習を開始した。

- ① 方部会の名簿・組織作り
- ② 「8. 27たいしん防災の日」までの学習計画立案
- ③ 昨年度の方部学習資料(新聞、ハザードマップなど)の確認



この間、大信地域内の町内会長宛(16方部)に、校長から7月23日に地域取材学習についての依頼書を出し、協力を要請した。その後、インタビュー、現地踏査、説明会など、どのような取材活動が可能かを各方部会から聞き取りをさせ、その内容をもとに、次の方部会を開いた。

第3時

月 日	主 な 学 習 内 容	学 習 の ね ら い
7月17日	ハザードマップや地域からの予備情報を基に、地域取材の計画を立てるとともに、防災新聞の基本設計を行う。 (方部会)	昨年度の防災学習が活かされた面、活かされなかった面を整理し、改善点を自分たちで考えさせる。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、なかなか全校生が一堂に会する機会がなかったが、間隔

を十分とって全体指導を行った上で、各方部会に分かれ、7月23日（海の日）に地域取材活動を行うための計画を立てることを中心に話し合った。集合時間、場所、訪問先、役割分担（インタビュアー、カメラマン、記録係など）を確認した。



地域取材活動

月日	主な学習内容	学習のねらい
7月23日	16方部毎に、計画に従って地域取材を行う。	地域の方に話を聞いたり、現地を訪れたりして、自分たちの力で「8.27水害」を取材し、その内容を理解する。



(市議会議員さんが現地を案内)



(町内会長さんが丁寧に説明)



(町内会長さんが防災教室を開催)



(図書館で資料を調べたグループ)



(現場で写真を撮るグループ)



(防災グッズを見せてくれた主婦)

7月23日(海の日)、各方部に分かれて取材学習を行った。概ね午前9時から、約1~2時間の取材学習だった。教職員は担当する方を巡回して生徒の様子を見たり、活動の様子を写真に収めたりしたが、活動自体はあくまでも生徒主体で行った。

掲載した写真はほんの一部だが、各方部とも地域の方が親切に対応してくださり、充実した取材活動ができた。



(見せていただいた防災グッズ)

【取材した方部】

①田園町府	6名	⑦赤坂3	7名	⑬中沢・豊地	8名
②町屋	8名	⑧下新城1	5名	⑭下小屋1	6名
③上新城・後沢	5名	⑨下新城2	5名	⑮下小屋2	11名
④堂山・増見	10名	⑩下新城3	6名	⑯隈戸	9名
⑤中新城・赤坂	6名	⑪石久保1	6名		
⑥赤坂2	5名	⑫石久保2	9名		

第4時

月日	主な学習内容	学習のねらい
7月29日	取材した内容を基に、各方部の「防災新聞」の制作に着手し、追加取材の必要な部分を洗い出す。 (方部会)	制作に先立って、新聞の内容・構成を話し合わせることで、方部の特徴に着目させる。

取材して得た資料、メモ、写真などを整理し、新聞制作を行った。 ※資料編7ページ



第5時

月日	主な学習内容	学習のねらい
8月25日	方部毎に「防災新聞」を完成させ、ポスターセッションの事前準備をする。また、学習のまとめを行う。 (方部会)	全員が新聞制作と発表練習に参加することによって、一人一人の防災学習への意識を高める。

完成した各方部の防災新聞を用いて、発表会のリハーサルを行った。また、「学習のまとめ」として各方部毎に災害の教訓を後世に残す「碑文」を考え、書き入れた。 ※資料編8・9ページ

第6時 令和2年度「8. 27たいしん防災の日」

月 日	主 な 学 習 内 容	学 習 の ね ら い
8月27日	「防災新聞」をもとにポスターセッションを行い、方部毎の防災学習の成果を発表し合う。(全校集会)	自分の方部の防災について理解を深め、地域住民の一員としての自覚をもたせる。

(1) 目的 平成10年8月27日に母校に大きな被害をもたらした「8. 27水害」について学び、教訓を後世に伝える取組を通じて、防災意識や身近な地域への意識を高める機会とする。

(2) 指導計画 (前述)

(3) 当日の日程と内容

全校集会 (1・2校時) : 全体指導、方部会

- ・日程の確認、方部会毎に防災新聞を用いての学習発表の最終打ち合わせ・準備

防災教室 (3・4校時) : 自衛隊による防災教室

- ・ライフハック (担架作り・搬送体験、停電時のランタン作り)
- ・自衛隊の災害派遣についての講話と展示
- ・「南極の氷」体験 (講話、実験、実触)



(緊急時の身近な材料で担架作り)



(観測隊が持ち帰った南極の氷)



(災害派遣時グッズの説明)

全校集会 (5・6校時) : 「8. 27たいしん防災の日」全体会

【開会式】

- 1 開式の言葉
- 2 生徒会長の話
- 3 校長講話
- 4 防災主任の話
- 5 閉会の言葉

【閉会式】

- 1 開式の言葉
- 2 防災学習のまとめ (生徒会代表)
- 3 「8. 27たいしん防災の日」
創設宣言
- 4 講評 (教頭)
- 5 閉会の言葉

【方部防災新聞発表会】

- | | | |
|------------|----------|-----------|
| ①田園町府 6名 | ⑦赤坂3 7名 | ⑬中沢・豊地 8名 |
| ②町屋 8名 | ⑧下新城1 5名 | ⑭下小屋1 6名 |
| ③上新城・後沢 5名 | ⑨下新城2 5名 | ⑮下小屋2 11名 |
| ④堂山・増見 10名 | ⑩下新城3 6名 | ⑯隈戸 9名 |
| ⑤中新城・赤坂 6名 | ⑪石久保1 6名 | |
| ⑥赤坂2 5名 | ⑫石久保2 9名 | |



(全体会での方部毎の発表の様子)

第7時

月日	主な学習内容	学習のねらい
9月3日	防災学習のまとめとして、各方部の発表内容や各自の感想を資料としてまとめる。(方部会)	学習内容を実生活や地域に活かせるようにまとめ、後輩に資料として残すために整理する。

第8時

月日	主な学習内容	学習のねらい
10月13日	「市長と語るしらかわ未来フォーラム」の機会を利用し、各方部の資料を基に生徒会役員が全体のまとめを発表する。	各方部からの発表内容を復習し、改めて全体へ学習内容の共有を図る。

計画では第7時までの予定であったが、恒例の「市長と語るしらかわ未来フォーラム」が実施される運びとなり、全体での学習のまとめをこの機会に行い、3年間防災学習の発表を見ていただいた市長さんにも成果をお伝えすることにした。

生徒代表お礼の言葉

生徒代表の言葉... (text partially obscured)

生徒会代表による
防災学習の発表

**市長と語る
しらかわ未来フォーラム 開催**

毎年恒例の「市長と語るしらかわ未来フォーラム」が10/13(火)に開催されました。今年も多くの生徒が参加し、防災学習の発表を行いました。市長は、生徒の発表を聞き、防災意識を高めることが大切であると話されました。

(学校だより「三年先の稽古」第37号(10/20)より抜粋)

Ⅲ 成果と課題について

1 成果

- 創立50周年記念事業を契機に3年間、地域の災害である「8. 27水害」を学び、改めてその実態を知り、地域への愛着と防災への意識を高めることができた。
- 本校の特色ある教育実践として、8月27日を「8. 27たいしん防災の日」とし、恒久的に防災学習に取り組む流れをつくることができた。
- 居住地域毎に調べ学習に取り組んだことにより、形骸化しがちだった「方部会」を活性化することができ、また異年齢集団活動のよい経験をさせることができた。
- 住民への聞き取りや現地調査を行ったことによって学校教育活動を地域に発信し、地域からも手厚い協力を得て、学校と地域との連携強化につながった。

2 課題

- 「8. 27水害」についての学習を同じように毎年行うのではなく、3年に1度重点的にいき、あとの2年はその都度課題を設定して、多角的・効果的な防災学習にしていく必要がある。
- 地域との連携を図る上で、地域に取材活動に出かけたことは効果的だったが、一方で、地域の人々に来校していただいてご指導いただくような機会を増やしていく必要がある。
- 同様に、各方部で防災学習の発表会を開くなどすれば、地域にさらに発信することができるので、今後、実現させていきたい。

3 課題解決に向けて

- ◇ 長期的視野に立って、防災学習を3年計画として立案し、「8. 27たいしん防災の日」を継続実施していくことが大切である。(下記及び次ページ参照)

「8. 27たいしん防災の日」の継続実施計画(案)

- 毎年8月27日に開催する。土日に重なる場合は直近の別日に実施する。
- 基本的に2時間程度(5・6校時)とするが、日程は内容に応じて柔軟に編成する。
- 全校生で取材学習や新聞制作を行うのは3年に1回を周期とし、その間の2年間はそれぞれテーマを設定して防災学習を行う。

【題材例】(この他にも、幅広く、柔軟に計画する)

- ・東日本大震災・福島第一原子力発電所の事故
- ・火山災害について
- ・外部講師による防災教室(自衛隊、消防署 など)
- ・感染症対策(医療機関、保健所 など)

※ローテーションの例

令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
「8. 27水害」重点学習 ○方部会毎に地域取材を行い、防災新聞を制作し、発表会を行った。 ○自衛隊による防災教室を実施した。	「8. 27水害」について資料を基に復習する。 <hr/> 中心となる学習活動 ○東日本大震災震災・原子力災害伝承館の職員による出前授業(または訪問学習)	「8. 27水害」について資料を基に復習する。 <hr/> 中心となる学習活動 ○磐梯山噴火記念館館長による出前授業(または訪問学習)	「8. 27水害」重点学習 ○方部会毎に地域取材を行い、防災新聞を制作し、発表会を行う…

- ◇ 「8. 27水害」の資料については、学校の図書室や地域の施設(公民館や中山義秀文学館など)にコーナーを設けて展示するなど、いつでも活用できる体制づくりを図りたい。
- ◇ 防災学習に限らず、総合的な学習の時間や特別活動、各教科の学習においても、学校は地域を知り、地域との連携をもっと図るべきであり、積極的に地域素材を掘り起こし、「地域素材の教材化」を図って、地域の特性を活かした教育活動を行っていくことが大切である。

地域に支えられ、地域を支える学校

白河市立大信中学校

「現場力」・「本番力」を磨く学校

放射線教育・防災教育 3年サイクルの計画

